



るもい風土資産カード

鯨番屋

(旧花田家番屋)

鯨文化を今に伝える
日本最北の国指定重要文化財

日本最北端の国指定重要文化財として、現存する鯨番屋では最大規模の建物とされる「旧花田家番屋」。小平町鬼鹿の国道232号沿いに建ち、道の駅「おびら鯨番屋」が隣接しています。木造平屋（一部2階）の寄棟造（玄関は入母屋造）で、建物面積は約906㎡。玄関を入り、中央の土間から左側には親方の住居（帳場・茶の間・客間など）、右側は漁夫たちの生活空間、突き当りには広い炊事場が配置されています。建物に使われている木材はすべて地元大楸の山から切り出し、三半船で海上を運び、木挽の手によって製材されたもので、木材を惜しみなく使った豪壮な造りは圧巻そのもの。この貴重な古民家建築物を後世に伝えるため、小平町では昭和46年（1971年）に建物を買収し、3年の歳月と約1億9000万円の費用を投じて、解体修復を実施、平成15年度にも大規模改修工事を行いました。解体調査の結果、創立は明治38年頃とされ、周囲には船倉、米蔵、網倉など100棟以上の付属施設が建ち並んでいたそうです。

花田家の先祖は安芸の国の人と言われ、二代伝七の頃より北海道にわたり、鯨漁を始めました。その後、テントカリ（現在の小平町広富）に移って本格的に鯨漁場を経営したのは三代伝七の次男、伝作で、最盛期には18ヶ統の鯨定置網を経営。雇っていた漁夫は500人を超え、番屋にはこのうち5ヶ統の漁夫の外船大工や鍛冶職、屋根職など総勢200人を収容していました。漁夫の寝台（ねだい）を2階に備えて3段とするなど機能性、合理性に富んだ構造には一部、洋風も取り入れるなど興味深い造りとなっています。

見どころ

現存する鯨番屋では道内最大級の旧花田家番屋は間口39.90m、奥行22.722mで、広い板敷きの居間には3つの囲炉裏が切られています。太い柱や欄間の透かし彫り、色ガラスをはめた洋風便所など、和洋折衷の装飾は見どころにあふれています。

ポイント

旧花田家番屋は道の駅おびら鯨番屋の敷地内にあり、国道を挟んだ向かい側にはにしん文化歴史公園があります。公園には小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像があり、日本海に沈む夕陽の撮影スポットとしても人気を集めています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



旧花田家番屋の前に建つ「モッコを背負う女」像は彫刻家尾崎英道氏の作品。東京で暮らす小平町出身の東京鬼鹿会が平成10年9月に寄贈したもので、ニンシで群れるふるさとの情景を忘れられない人々の思いが込められています。



道の駅おびら鯨番屋のレストランではにしんの三平汁やにしんそばなど、地元の郷土料理が味わえます。海産物加工品や特産品の販売コーナーもあり、ドライブ途中の休憩ポイントとして多くの観光客でにぎわっています。



毎年5月の最終日曜日には鯨番屋の前庭を会場に、春の一大イベント「鯨番屋まつり」が開催されます。地元の若者が作り上げた太鼓「麓籠」が鳴り響き、沖揚げ音頭や鬼鹿松前神楽の舞などが披露されるほか、グルメコーナーもあり、道内外からの来場者で賑わいを見せています。

■基本情報 (R3.5)

文化財指定：重要文化財
指定年月日：昭和46年12月28日
住 所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
T E L：0164-57-1411
営業時間：8:00～17:00(5～10月)
9:00～16:00(11～4月)
休 館 日：毎週月曜日
(6月第3月曜～8月第2月曜まで無休)
観 覧 料：大人400円小人150円
20人以上の団体250円